

愛知県厚生農業協同組合連合会
渥美病院
公的医療機関等2025プラン

平成29年 12月 策定

目 次

基本情報	1
1 現状と課題	2
① 構想区域の現状	2
② 構想区域の課題	4
③ 自施設の現状	4
④ 自施設の課題	14
2 今後の方針	15
① 地域において今後担うべき役割	15
② 今後持つべき病床機能	16
③ その他見直すべき点	16
3 具体的な計画	17
① 4機能ごとの病床のあり方について	17
② 診療科の見直しについて	18
③ その他の数値目標について	18
4 その他	19

【渥美病院の基本情報】

医療機関名：愛知県厚生農業協同組合連合会渥美病院

開設主体：愛知県厚生農業協同組合連合会

所在地：愛知県田原市神戸町赤石1番地1

許可病床数：316床

（病床の種別）一般病床261床

療養病床55床

（病床機能別）一般急性期病床206床

地域包括ケア病床55床

療養病床55床

稼働病床数：

（病床の種別）一般病床261床

療養病床44病床

（病床機能別）一般急性期病床206床

地域包括ケア病床55床

療養病床44床

診療科目：内科、精神科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科
形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科
リハビリテーション科、放射線科、麻酔科

職員数：常勤458名 非常勤34.5名（常勤換算） 201705現在

- ・ 医師 常勤32名 非常勤6.2名
- ・ 看護職員 常勤225名 非常勤17.2名
- ・ 専門職 コメディカル 常勤97名 非常勤0.5名 技能職 常勤19名 非常勤0.9名
- ・ 事務職員 常勤51名 非常勤3.2名
- ・ 作業職 常勤34名 非常勤6.6名

【1. 現状と課題】

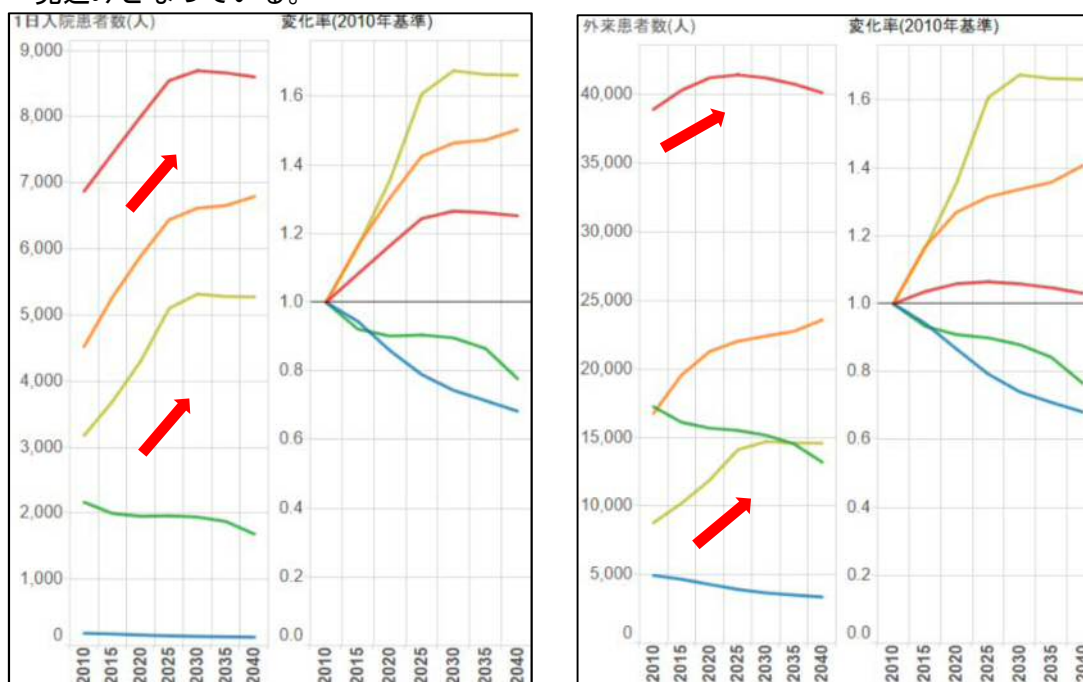
① 構想区域の現状

○東三河南部医療圏の総人口は緩やかに減少し、0～64歳人口は、2010年から2035年にかけて11万人程度減少すると推計されている。また、75歳以上人口は2030年まで増加し、その後減少する見込みとなっている。



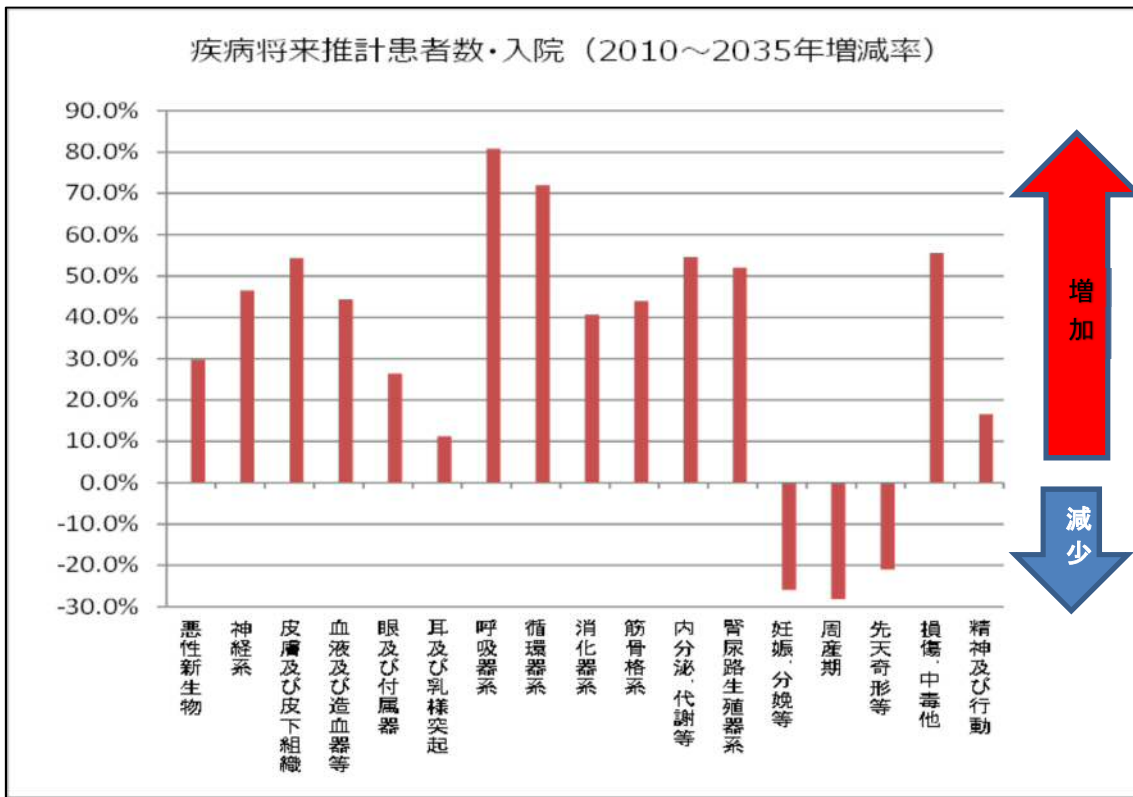
出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25（2013）年3月推計）」

○入院患者数は高齢患者の急増に伴って2030年まで大きく増加するが、その後減少に転じると推計されている。一方、外来患者数は2025年まで緩やかに増加し、その後減少する見込みとなっている。



総数/15歳未満/15-64歳/65歳以上/75歳以上(再掲)

○疾病別将来推計入院患者数をみると、呼吸器系や循環器系等の疾病で入院患者数が大きく増加する一方、周産期等の疾病では患者数が減少することが見込まれている。



出典：伏見清秀「二次医療圏別疾病別将来推計患者分析ツール」

○東三河南部医療圏の2014年病床機能報告の結果と2025年の必要病床数の推計を比較すると、高度急性期・急性期・慢性期病床が過剰である一方、回復期病床は不足している。

	2014年時点 (有床診含む)	2025年必要病床数	差
高度急性期	880	537	△343
急性期	2,415	1,633	△782
回復期	470	1,587	1,117
慢性期	2,672	1,457	△1,215
未選択	55		△55
計	6,492	5,214	△1,278

○田原市内の診療所減少・高齢化
一般診療所数

	H25	H26	H27	H28
診療所数	29	29	27	27

田原市医師会会員平均年齢
29年度 63.1歳

※地域開業医の平均年齢は63.1歳（H29.9現在）と高齢化は顕著であり、新規開業もなく開業医数は横ばいであり後継者不足にも悩まされている。

※一次救急として、医師会にて平日夜間診療事業を実施しているものの固定化されておらずそれぞれの自院で診療を行っており、東西に長い渥美半島の特性上当番医の場所によっては利便性が悪く当院への受診が多くなる。

※地域の要望が大きい小児救急は当院では医師不足の為曜日・時間限定にて実施、地域唯一の小児科開業医も高齢であり、豊橋市民病院救急センター、豊橋休日夜間診療所への依存度が高くなっている。

② 構想区域の課題

- 東三河南部医療圏では、総人口が緩やかに減少する一方、高齢者人口は2030年まで増加し続けるため、入院患者数が増加するが、高齢者人口も減少に転じる2035年からは、入院患者数が徐々に減少すると見込まれる。
- 東三河南部医療圏の2014年病床機能報告の結果と2025年の必要病床数の推計を比較すると、高度急性期・急性期・慢性期病床が過剰である一方、回復期病床は不足している。
- 当院の立地する東三河南部医療圏の田原市は、診療所数の減少と診療所医師の高齢化が進んでいる。その中で当院は田原市唯一の総合病院であり、東三河南部医療圏の有力な急性期病院から離れており孤立的側面があるため、病病連携が困難な状況である。

③ 自施設の現状

○理念

私たちは地域の人々に人間愛に基づいた確かな医療を提供します。

○基本方針

- 1) 心をこめた医療・介護サービスを提供し、地域の皆様の安心と満足が得られるよう心がけます。
- 2) 医療・介護の水準向上に努め、常に最善の医療・介護サービスを提供できるように心がけます。
- 3) 諸機関と密接に連携し、地域医療の向上を図るとともに、疾病予防の推進と介護サービスの充実に努めます。

○届出入院基本料等（平成28年度）

一般病棟7：1入院基本料 206床 平均在院日数 16.25日 病床稼働率 86.56%

地域包括ケア病棟入院料（I） 55床 平均在院日数 19.2日 病床稼働率 77.89%

療養病棟入院基本料Ⅱ 55床 平均在院日数 73.1日 病床稼働率 69.66%

○外来患者数 152,596名 1日当たり 572名

○入院患者数 91,311名 1日当たり 250名 病床稼働率 79.17%（稼働病床82.66%）

○職員数

常勤458名 非常勤34.5名（常勤換算）

各年度5月

	26年度	27年度	28年度	29年度
医師	33 (7.4)	35 (6.3)	34 (6.8)	32 (6.2)
看護職員	204 (19.9)	212 (18.6)	216 (17.0)	225 (17.2)
薬剤師	15	16	15	17
放射線技師	12	12	12	13
臨床検査技師	21	21	20	21
リハビリ技士	23	27	28	34
管理栄養士	5	5	5	5
MSW	2	3	3	4
その他職員	103 (8.5)	108 (11.2)	108 (11.2)	107 (11.1)
全職員	418 (35.8)	439 (35.1)	441 (35.0)	458 (34.5)

○診療科

内科、精神科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、形成外科、
脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、
リハビリテーション科、放射線科、麻酔科（計 18科）

○各種指定

救急告示病院、病院群輪番制病院、臨床研修指定病院

○各種認定

日本内科学会認定医制度教育関連施設、日本整形外科学会研修施設
日本消化器病学会専門医認定施設、日本循環器学会専門医研修施設
日本外科学会専門医関連施設、日本脳外科学会研修施設
日本産科婦人科学会専攻医指導施設 他

○保有機能

手術室機能、分娩施設、健診センター

介護・福祉複合施設あつみの郷（介護老人保健施設、通所リハビリ、居宅介護支援、地
域包括支援センター、訪問看護ステーション、訪問リハビリ、訪問介護、認知症対応型
共同生活介護、生活支援ハウス）

○自施設の特徴

田原市に唯一の有床医療機関かつ総合病院であり、当院と30分診療圏・傷病分類の重なり
が大きいDPC病院はなく、地域医療を守る使命から、急性期医療を中心とし、回復期、
療養期、までを担う「事業所完結型医療提供」を展開している。（東三河南部医療圏で救
急車による搬送の率で見ると、渥美病院は15.0%であり、医療圏の平均13.8%を上回っ
ている。）

○自施設の担う政策医療

2次救急医療機関。

医師不足から訪問診療が困難な状況であるため、地元医師会・診療所との連携を密にと
るとともに、訪問看護ステーションの充実を図りながら在宅医療のフォローをしていく。
小児医療については、重症症例については地域医療支援病院と連携し対応する。

○他機関との連携

東三河南部医療圏連携協議会（29年度より）

田原市医療介護連携推進部会

地域包括ケアシステム構築に向けた担当者会議として開催される会議で、在宅医療連
携推進のための課題抽出と対応策の検討及び市民への啓蒙活動の企画運営も行う。
29年度開催予定（6回/年）

東三河地区支部施設退院調整者会議

愛知県看護協会東三河地区支部が主催する会議。地域包括ケアシステム構築に向け、
各施設で退院調整業務に携わる職種が顔の見える関係づくりと連携を図ることを目的
としている。29年度開催予定（4回/年）

病院・転床施設連携懇談会

豊橋市民病院で年度末に開催される会議で、連携病院の代表者と市民病院の代表部長
等が出席する会議。当該年度の連携実報告や意見交換が行われる。29年度開催予定
（1回/年）

穂の国脳卒中医療連携研究会

東三河（豊橋、蒲郡、豊川、新城、田原）で稼働している脳卒中地域連携パスに参加
する医療機関及び老健等の介護施設で構成される会議。地域連携パスの運用、参加医
療機関等は厚生局へ届出が行われており、現在参加機関は 136 施設。29年度開催予定
（3回/年）

○患者数等

【外 来】

過去3年間外来患者数

	H26	H27	H28
延患者数	162,711	160,857	152,596
1日当患者数	614	605	572
平均通院回数	1.33	1.31	1.29

過去3年間外来科別患者数

	H26	H27	H28
内科	51,357	52,492	50,210
小児科	17,997	18,251	16,362
外科	8,906	9,022	8,611
整形外科	34,953	34,073	33,847
脳神経外科	11,654	11,696	10,442
眼科	6,924	7,763	7,908
耳鼻咽喉科	11,479	10,901	9,663
皮膚科	10,295	7,625	7,050
泌尿器科	351	330	394
産婦人科	8,795	8,704	8,109

28年度実績

	内科	小児科	外科	整形外科	脳外科	
患者数	50,210	16,362	8,611	33,847	10,442	
単価	14,138	8,212	23,250	8,177	7,924	
収入（千円）	709,885	134,357	200,207	276,770	82,743	
	眼科	耳鼻科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	合計
患者数	7,908	9,663	7,050	394	8,109	152,596
単価	6,924	4,332	4,886	23,607	4,775	10,374
収入（千円）	54,752	41,859	34,444	9,301	38,720	1,583,037

※常勤医師数の減少、また皮膚科・泌尿器科・眼科の常勤医師不在のため、限られた曜日
のみの稼働を強いられており、併科受診の多い当院の患者数は減少傾向にある。また、
長期投薬による平均通院回数の減少も延患者数の減少に影響している。

【入院】

過去3年間入院患者数

	H26	H27	H28
延患者数	81,033	84,325	91,311
1日当患者数	222	230	250

過去3年年間機能別入院利用状況

		26年度	27年度	28年度
病床利用率	一般急性期	77.6	80.3	82.4
	地域包括ケア	60.7	58.7	73.0
	療養病棟	79.5	52.6	68.8
平均在院日数	一般急性期	16.29	15.58	16.25
	地域包括ケア	21.95	20.92	19.2
	療養病棟	64.77	62.91	73.1
診療単価	一般急性期	42,923	45,782	44,113
	地域包括ケア	29,500	30,368	30,202
	療養病棟	21,005	23,105	22,653

※平成26年10月より病床再編を実施し、一般急性期病棟6病棟のうち地域包括ケア病棟1病棟、療養病棟1病棟を立ち上げた。年々病床利用率は向上している。

過去3年間科別入院患者数

	H26	H27	H28
内科	37,340	42,503	45,955
小児科	321	235	117
外科	6,824	6,921	6,672
整形外科	22,393	22,868	27,456
脳神経外科	8,170	6,626	6,383
眼科	427	442	532
耳鼻咽喉科	940	615	528
皮膚科	0	0	2
泌尿器科	0	0	0
産婦人科	4,818	4,115	3,665

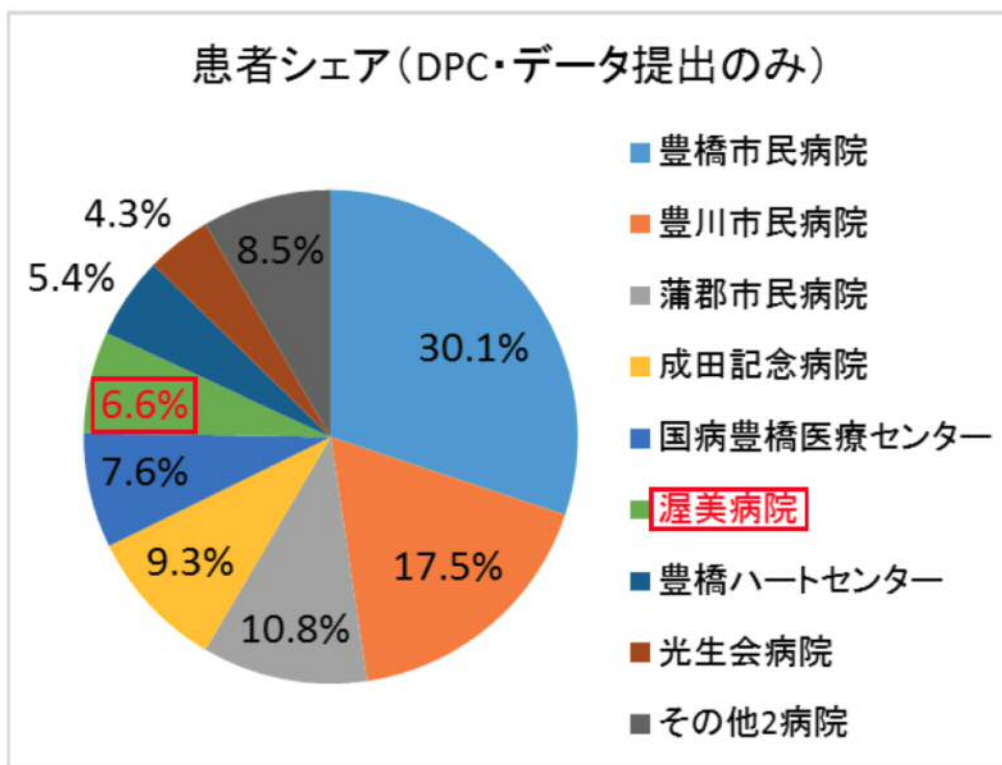
28年度実績

	内科	小児科	外科	整形外科	脳外科	
患者数	45,955	117	6,672	27,457	6,383	
1日単価	35,115	45,193	54,545	39,711	44,501	
収入(千円)	1,613,699	5,288	363,925	1,090,342	284,049	
	眼科	耳鼻科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	合計
患者数	532	528	2	0	3,665	91,311
1日単価	109,155	30,873	98,967	0	45,922	39,428
収入(千円)	58,071	16,301	198	0	168,306	3,600,177

○患者シェア分析

1) 東三河南部医療圏内の患者シェア

※渥美病院が6番目に多く、6.6%を占める。



2) DPC症例件数比較

H26年度

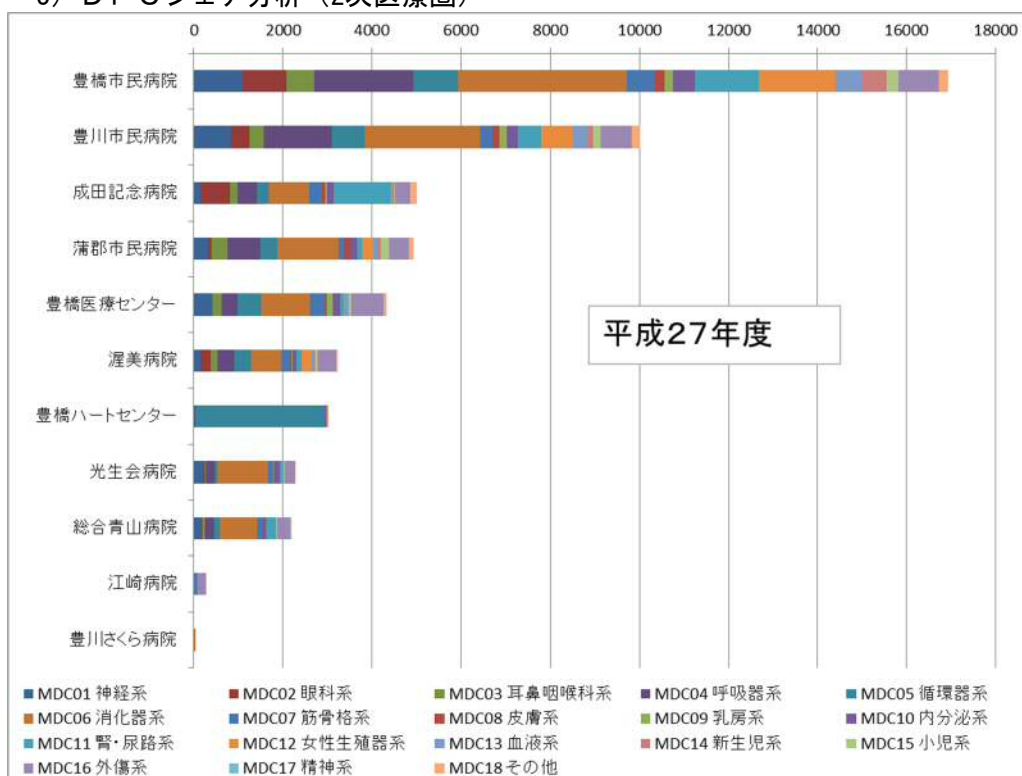
	MDC01 神経系	MDC02 眼科系	MDC03 耳鼻科系	MDC04 呼吸器系	MDC05 循環器系	MDC06 消化器系	MDC07 筋骨格系	MDC08 皮膚系	MDC09 乳房系
MDC件数/月	17.8	17.6	14.7	41.2	27.6	64.1	15.9	4.1	3.4
医療圏内順位	6	4	6	4	6	8	5	5	5
医療圏内シェア率	6.4%	8.2%	8.7%	8.3%	5.2%	6.3%	8.2%	5.9%	7.1%
院内順位	6	7	9	2	4	1	8	13	15
院内シェア率	5.9%	5.9%	4.9%	13.7%	9.2%	21.3%	5.3%	1.4%	1.1%
	MDC10 内分泌系	MDC11 腎・尿路系	MDC12 女性生殖系	MDC13 血液系	MDC14 新生児系	MDC15 小児系	MDC16 外傷系	MDC17 精神系	MDC18 その他
MDC件数/月	10.1	8.5	20.6	2.6	2.8	5.0	41.0	-	3.5
医療圏内順位	6	6	4	7	4	5	5	-	6
医療圏内シェア率	8.0%	2.7%	8.3%	2.6%	3.9%	7.8%	11.6%	-	5.3%
院内順位	10	11	5	17	16	12	3	-	14
院内シェア率	3.4%	2.8%	6.9%	0.9%	0.9%	1.7%	13.7%	-	1.2%

H27年度

	MDC01 神経系	MDC02 眼科系	MDC03 耳鼻科系	MDC04 呼吸器系	MDC05 循環器系	MDC06 消化器系	MDC07 筋骨格系	MDC08 皮膚系	MDC09 乳房系
MDC件数/月	13.5	18.4	12.5	32	30.6	56.9	15.1	3.2	2.5
医療圏内順位	7	4	6	5	6	8	5	5	5
医療圏内シェア率	4.8%	9.2%	7.7%	6.3%	5.8%	5.5%	8.6%	5.2%	5.4%
院内順位	8	5	9	3	4	1	7	15	17
院内シェア率	5.0%	6.8%	4.6%	11.8%	11.3%	21.1%	5.6%	1.2%	0.9%
	MDC10 内分泌系	MDC11 腎・尿路系	MDC12 女性生殖系	MDC13 血液系	MDC14 新生児系	MDC15 小児系	MDC16 外傷系	MDC17 精神系	MDC18 その他
MDC件数/月	7.8	9.6	18	4.3	2.8	4.4	34.5	0.3	4
医療圏内順位	7	6	4	5	4	5	5	6	6
医療圏内シェア率	6.3%	3.0%	7.4%	4.0%	4.1%	6.6%	9.9%	5.0%	5.8%
院内順位	11	10	6	13	16	12	2	18	14
院内シェア率	2.9%	3.5%	6.7%	1.6%	1.0%	1.6%	12.8%	0.1%	1.5%

※呼吸器系・外傷系の医療圏におけるシェア率、院内におけるシェア率が他の疾患と比べて高く、これに関連する診療科が強みとなり得ると考えられる。

3) DPCシェア分析 (2次医療圏)



※東三河医療圏におけるMDC件数は豊橋市民病院が最も多く、渥美病院は6番目に多い。

4) 自院のDPCシェア分析

H27年度

#MDC2	#MDC2名	旧田原町	旧渥美町	旧赤羽根町	杉山町 老津町	西赤沢町 東赤沢町 城下 伊古部町 等	大清水町 植田町 富士見台 等	その他	合計
1	神経系	137	92	21	6		5	261	
2	眼科系	103	85	25	6	2		221	
3	耳鼻科系	82	25	19	10	2	4	145	
4	呼吸器系	273	160	53	20	5	2	516	
5	循環器系	207	120	69	5	4		405	
6	消化器系	378	247	66	21	8	7	734	
7	筋骨格系	89	66	24		4	9	192	
8	皮膚系	20	20	2				42	
9	乳房系	19	11					30	
10	内分泌系	71	29	6	2		9	117	
11	腎・尿路系	67	46	23	6			142	
12	女性生殖器系	129	30	8		2	6	175	
13	血液系	30	13	9	2			54	
14	新生児系	17	6	2				25	
15	小児系	34	18	6				58	
16	外傷系	305	189	42	14		6	558	
18	その他	34	18	2	2			56	
	計	1995	1175	377	94	27	48	3731	
	地域別シェア率	53.5%	31.5%	10.1%	2.5%	0.7%	1.3%	0.4%	

※当院におけるMDC件数の地域性は、田原市内が95.1%、豊橋市南部地域が4.5%を占めている。

○医療機能分析

	26年度	27年度	28年度
褥瘡発生率	1.4%	1.7%	1.6%

※平成14年度より褥瘡管理委員会が活動し、28年度より認定看護師が委員に加わった。院内における褥瘡発生予防・治癒、褥瘡ケアの教育に努め、褥瘡患者の入院期間の短縮およびコスト削減を目指し、さらにスキンケア全般にわたる教育的活動をして行くことを目的としており、発生率の抑制に努めている。

○診療実績シェア

当院の診療実績（救急患者搬送件数、手術数、逆紹介数、入棟退院先）

1) 救急患者搬送件数

	H26	H27	H28
全件	2,211	2,092	2,123
渥美病院	1,835	1,691	1,731
応需率	83.0%	80.8%	81.5%

※救急車応需率は、常勤医不在の診療科の増加により平成27年度80.7%まで減少したが、28年度は若干増加した。皮膚科・泌尿器科の常勤医不在のために専門的治療が不可能になったことも一因と考える。また小児科については従前より時間外の救急車を受け入れていない。渥美半島唯一の総合病院として、地域医療機関と連携を図りながら、救急当直体制を維持していくことが求められる。

2) 手術件数（実績）

科別手術件数

		外科	眼科	耳鼻科	整形外	脳外科	皮膚科	婦人科	泌尿器	総計
26年度	手術件数	321	290	13	650	31	109	46	0	1460
	全麻件数 (再掲)	231	0	3	98	12	0	13	0	357
	1室当たり 件数	38.5	0	0.5	16.3	2	0	2.17	0	59.5
27年度	手術件数	301	255	8	619	41	106	44	1	1375
	全麻件数 (再掲)	212	0	2	72	14	0	14	0	314
	1室当たり 件数	35.3	0.0	0.3	12.0	2.3	0.0	2.3	0.0	52.3
28年度	手術件数	297	304	3	632	39	93	30	0	1398
	全麻件数 (再掲)	226	0	1	73	18	1	10	0	329
	1室当たり 件数	37.7	0.0	0.2	12.2	3.0	0.2	1.7	0.0	54.8

※常勤医不在や一人常勤医師の科の高齢化による診療科の手術件数の減少が見られる。

3) 透析実績

	H26	H27	H28
利用患者数	79	81	63
治療数	502	615	410
透析室数	1	1	1

※平成21年6月末の泌尿器科医師退職により、外来維持透析を休止したため件数は大幅減少し、現在は入院中患者のみ対応している。

4) 化学療法実績

	H26	H27	H28
通院患者件数	743	558	646
入院患者件数	137	74	112

※認定看護師1名（がん性疼痛）を中心に運営、外来化学療法の件数は、27年度は減少したものの年間800件程度の実績を維持している。

5) リハビリテーション実績

	H26	H27	H28
理学療法	54,073	63,543	69,300
作業療法	22,502	24,099	21,039
言語聴覚療法	17,359	17,955	18,303
摂食機能療法	6,954	7,719	10,568

※患者の高齢化が進み、在宅復帰支援強化のための訓練需要の増加や誤嚥防止のための嚥下訓練機能訓練需要の増加が顕著である。

6) 分娩件数

	H26	H27	H28
分娩件数	231	203	187

※常勤医2名（正職員1名、準職員1名）にて正常分娩のみ対応している。対応可能な分娩数は限られているため、大きな変動はない。正常分娩以外は他院紹介し、里帰り分娩も対応していない。準職員1名が退職した場合、分娩を維持することは困難な状況となる。田原市内唯一の産科対応医療機関のため、年間200件前後の分娩件数に対応している。

7) 紹介・逆紹介患者数

(%)

	H26	H27	H28
紹介率	14.6	11.1	12.4
逆紹介率	16.0	17.8	18.4

※地域性から近隣に診療所が少ない地域であり、かかりつけ医が当医医師である場合が多いため紹介率は12%程度とそれほど高くなく、逆紹介率が紹介率を6%ほど上回っている状況である。

8) 他医より紹介あり入院患者数



(注1) 厚労省「平成27年度第7回診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会」よりJA全厚連作成

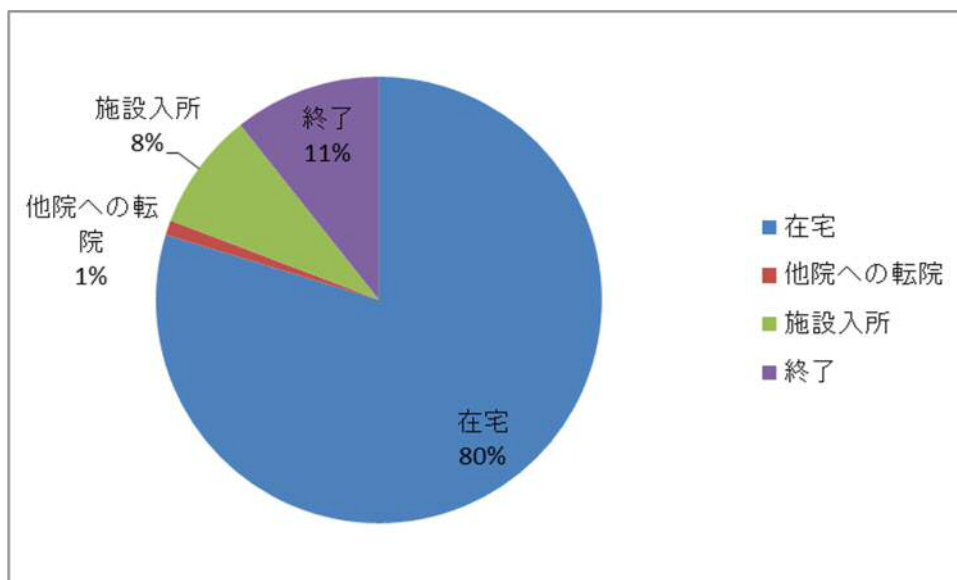
(注2) 他院より紹介有りの率=他院より紹介有りの全MDC件数/全MDC件数

※医療圏内における他院より紹介有り入院患者率は33.8%であり診療圏では平均レベルにある。

9) 退院先

28年度の患者の退院先（構成割合を円グラフで作成）

- ・当院の退院先として在宅は80.0%と高い数字である。



④ 自施設の課題

○大学医局からの医師派遣に頼る当院では地理的ハンディから派遣の優先順位は低い。そのため元々医局員が不足する診療科は縮小や撤退を余儀なくされている。特にマイナー科においてその傾向が著しく精神科、皮膚科、眼科、泌尿器科等では常勤医が不在となっている。眼科を除けば入院対応ができないなど診療機能の縮小につながっている。同様に常勤医1名の診療科においては、後任の派遣のメドが立っていない。

	～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上	合計
内科	4	1		3		2		10
精神神経科								0
小児科		1				1		2
外科	3		1				1	5
整形外科	4				1			5
脳神経外科					2			2
皮膚科								0
産婦人科						1	1	2
眼科								0
耳鼻咽喉科							1	1
その他	1		2			1		4

※ 平成29年4月現在

○100床あたりの医師数（許可病床ベース）は13.3人となっており、公的病院の平均、全病院（精神病床、結核病床のみの病院を除く）の平均を下回っている。

	100床当り医師数 (許可病床ベース)
渥美病院	13.3人
公的医療機関	19.3人
全病院平均（精神科病院除く）	15.3人

(注) 100床あたり医師数：厚生連病院以外の平均は、厚生労働省「平成26年病院報告」より

(注) 延患者医師数：厚生連病院以外の平均は、厚生労働省「平成26年病院報告」よりJA全厚連作成（在院患者延数、常勤換算医師数のデータを使用）

○東三河南部医療圏は、豊橋市民病院（①）が基幹病院として機能しており、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、救命救急センター、総合周産期母子医療センター、地域災害拠点病院、へき地医療拠点病院等の指定を受けている。

その他にも、地域災害拠点病院である豊川市民病院（②）や蒲郡市民病院（③）、国病豊橋医療センター（⑦）等の急性期病院が立地しており、急性期医療は充実している。

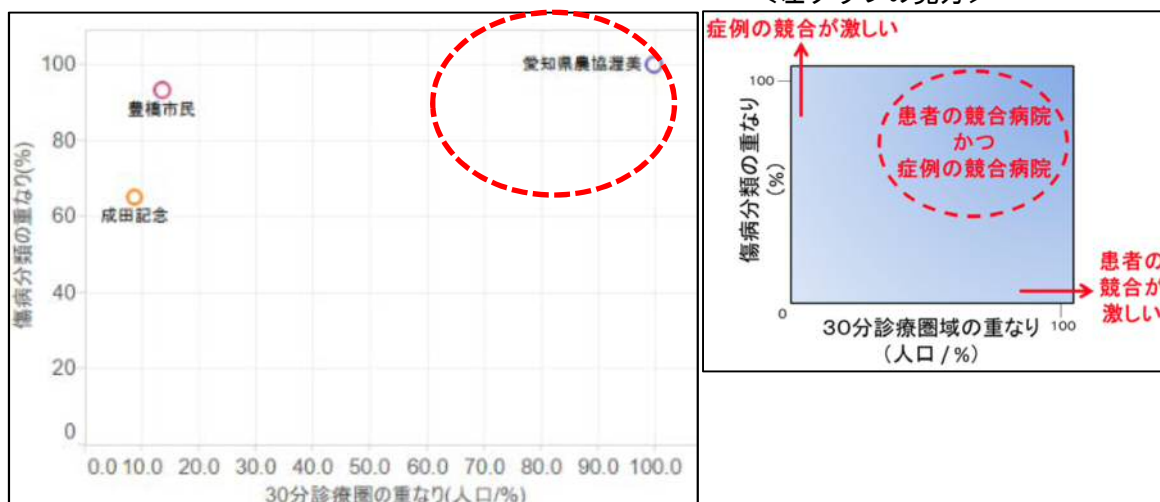
その中で渥美病院は、有力な急性期病院から離れている田原市の医療を支えなければならない。



【2. 今後の方針】

① 地域において今後担うべき役割

○渥美病院と30分診療圏・傷病分類の重なりが大きいDPC病院はなく、有力な急性期病院から立地的に離れており、今後も急性期医療を中心とし、回復期、療養期、までを担う「事業所完結型医療提供」を展開する役割がある。

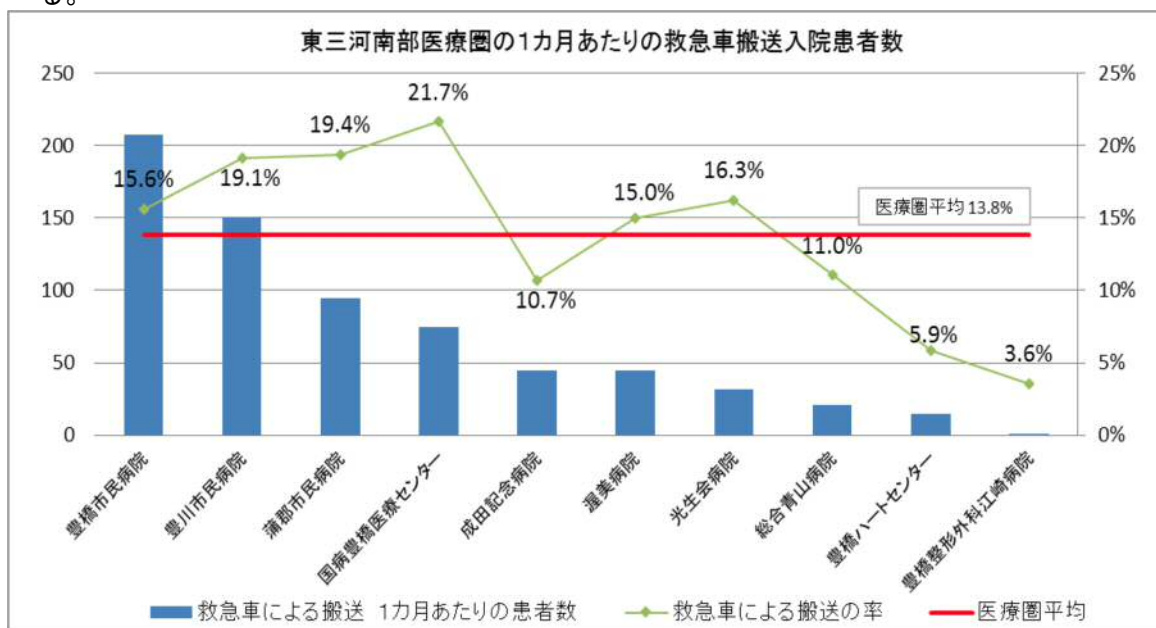


※1 傷病分類の重なり=厚生連病院と他院の双方で診療している傷病分類数/厚生連病院の傷病分類数

※2 30分診療圏の重なり=厚生連病院と他院で共有している30分診療圏の人口数/厚生連病院の30分診療圏の人口数

※3 多くの傷病では、DPC病院の患者の過半を、30分診療圏の住所地の患者が占めている。

○救急車による搬送の率で見ると、渥美病院は15.0%であり、医療圏の平均を上回っており診療圏における救急医療のニーズは高く、2次救急医療機関として機能する必要がある。



※ 厚労省「平成27年度第7回診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会」より

② 今後持つべき病床機能

○東三河南部医療圏は急性期病院が多数立地する医療圏であるが、有力な急性期病院から離れた位置に立地していることに加え、救急車による搬送の率が医療圏の平均を上回っていることから、今後も一定の急性期機能を担っていくとともに、地域医療を守る理念の基、住み慣れた地域で医療を継続的に受けられるよう、回復期（地域包括ケア病床）・慢性期（療養病床）も備えた病棟体制を維持する。

○需要が増が見込まれる診療科の維持・充実

□呼吸器系

医療圏のシェア率については4番目に多く、効率性指数・複雑性指数ともに全国平均（＝1.0）を上回っている。なお、今後は入院患者数が増加すると見込まれる疾患である。

	件数／月	患者構成の指標	在院日数の指標	シェア率（％）
豊橋市民病院	173.3	1.02	1.11	34.9
豊川市民病院	110.3	0.91	0.88	22.2
蒲郡市民病院	66.1	0.92	0.94	13.3
渥美病院	41.2	1.20	1.14	8.3
豊橋医療センター	35.0	0.76	1.07	7.0
成田記念病院	34.8	1.03	0.72	7.0
総合青山病院	17.7	1.31	0.81	3.6
光生会病院	16.1	1.22	0.95	3.2
豊橋ハートセンター	2.4	1.27	1.47	0.5

□外傷系

医療圏のシェア率については5番目に多く、効率性指数・複雑性指数ともに全国平均（＝1.0）を上回っている。なお、今後は入院患者数が増加すると見込まれる疾患である。

	件数／月	患者構成の指標	在院日数の指標	シェア率（％）
豊橋市民病院	78.2	0.98	1.14	22.2
豊川市民病院	59.8	1.06	1.26	17.0
豊橋医療センター	49.7	0.99	0.96	14.1
蒲郡市民病院	45.8	1.16	0.90	13.0
渥美病院	41.0	1.04	0.85	11.6
成田記念病院	26.8	1.29	0.94	7.6
総合青山病院	21.8	0.88	1.11	6.2
光生会病院	16.1	1.29	0.77	4.6
江崎病院	13.0	1.01	1.24	3.7

※1 患者構成の指標（複雑性指数）

数値が大きいほど治療に長期間を要する傷病の患者の構成割合が高いことを表す。（全国平均＝1）

※2 在院日数の指標（効率性指数）

数値が大きいほど同じ傷病を治療する場合の平均在院日数が短いことを表す。（全国平均＝1）

③ その他見直すべき点

○医療圏内だけでは計り得ない地理的な制約等による医療提供体制の偏在性を考慮した地域医療計画の策定が必要と考える。

○医療機関全体として、今後の医療需要の推移を加味して最適な病床規模に向けて検討する。

【3. 具体的な計画】

① 4 機能ごとの病床のあり方について

渥美半島唯一の有床医療機関・総合病院であり、有力な急性期病院から立地的に離れており、救急車の応需率が高いことから、一定の一般急性期機能を中心とし、回復期、療養病棟を備えた病床機能を維持する。

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	206床		206床
回復期	55床		55床
慢性期	55床		55床
(合計)	316床		316床

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	○診療圏の状況把握		
2018年度	○合意形成に向けた協議 ○地域医療構想調整会議における自院の方向性検討	○自院の病床機能の方向性決定 ○地域医療構想調整会議において自院の病床のあり方について報告	
2019～2020年度	○具体的な病床整備計画検討		
2021～2023年度	○具体的な病床機能計画策定	○2025年度度までに地域に必要な機能を持った病床を整備	

② 診療科の見直しについて

渥美半島唯一の有床医療機関・総合病院であり、有力な急性期病院から立地的に離れており、かつ診療所医師の高齢化が進み減少傾向にあるため、地域医療を守る観点から見直しは行わない。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標等について

医療提供に関する項目				
	H28実績	H29年度	H30年度	H32年度
救急車応需率	81.5%	80%以上	80%以上	80%以上
手術件数	1,398件	1,300件以上	1,300件以上	1,300件以上
紹介率	12.4%	13.0%	13.0%	13.0%
逆紹介率	18.4%	18.0%	18.0%	18.0%
地域性から近隣に診療所が少なく、かかりつけ医が当医院医師である場合が多いため紹介率は高くない状況や、急性期病院から立地的に離れている地理的な条件もあり、現状維持を基本とする。				
分娩件数	187件	170件	170件	170件
病院機能評価	継続	継続	更新受診	継続

※病床稼働率：80%
直近3年間の動向を踏まえ病床稼働率 80%（稼働病床当たり）とする。

【4. その他】

(自由記載)

大学医局からの医師派遣に頼る当院では地理的ハンディから派遣の優先順位は低い。そのため元々医局員が不足する診療科は縮小や撤退を余儀なくされている。特にマイナー科においてその傾向が著しく、この傾向が続くものと予想される。地方に必要な医療提供体制確保のためにも地域医療支援センターの役割に期待する。

【5. まとめ】

当院は渥美半島地域の中で唯一の総合病院として半永続的な医療提供を行う使命がある。

地理的に、有力な急性期病院から離れており、かつ医療資源の少ない地域であり、当院の救急車受入件数は年間 1,700 件を超え、田原市消防署管内の救急車応需率は 80%以上と高い。そのため一定の急性期病院機能を中心とし、回復期と慢性期を兼ね備えた現状機能を維持する。高度急性期医療は豊橋市民病院等との連携を維持・強化していき、急性期医療から地域ニーズでもある回復期・慢性期医療については、地域包括ケア病棟・療養病棟、そして介護事業所とも連携を強化するとともに、在宅医療へつなぐ期間の医療についてもトータル的に担っていく必要がある。

そのためには、これ以上診療機能を低下させないよう医師（研修医）をはじめとしたマンパワー確保についての活動を一層充実させていくとともに、次世代の人材育成にも力を注いでいくこととする。